

『一億人の英文法』PART3-CHAPTER11 : to 不定詞(pp.453-474)

To 不定詞・・・「to+動詞原形」を中心としたひとまとまりのフレーズ。出てくる位置としては、①主語②目的語③修飾として④it などと共に、の4種類がある。

SECTION1 名詞位置での to 不定詞

- (1) () () new friends is not so easy.
新しい友達を作ることはそれほど簡単ではありません。
- (2) I want () () a policeman.
僕、おまわりさんになりたい。

- (1) 主語として「～することは」
・主語に置かれた to 不定詞は一般的な内容を示している。
・to 不定詞を文頭に持ってくるとかなり目立つ＝目立たせたいときに！
- (2) 目的語として「～すること」
・(2)のような「これから行う」を強く含意する動詞(是から動詞)とともに出てくる to 不定詞には「(ある行為に)向かっていく」という感触がある。

★to 不定詞 / -ing の動詞との相性

→どちらも動詞の目的語として使えるが、動詞によってはどちらかの動詞しか使えない場合もある。

○to 不定詞だけしかとらない動詞(これから動詞)

agree(同意する), expect(予期する), want(したい), refuse(拒否する), manage(なんとか～する)など。

○-ing だけしかとらない動詞(リアリティ動詞)

admit(認める), deny(否認する), stop(やめる), avoid(避ける), recommend(薦める)など。

○to 不定詞か -ing かによって意味が異なる動詞

regret の場合・・・

・ He regrets breaking up with me. →過去
(彼、私と別れたことを後悔してるの。)

・ I regret to inform you that your application was rejected. →これから
(残念ながらあなたの申し込みが受け入れられなかったことをお知らせしなければなりません。)

⇒つまり・・・

-ing : 「実際にやってみた」こと、to 不定詞 : 「やろうとしてみた」ことについて述べている。

Question!

He stopped to smoke. ()

SECTION2 修飾位置での to 不定詞①

- (1) He () () () his parents.
彼は両親に感謝するようになった。
- (2) The president () () () Japan next week. 【予定】
大統領は来週訪日の予定。
- (3) I consider () () () open-minded.
彼、心が広い人だと思うなあ。

(1) come/get to 不定詞

・ She came to this country last year. (彼女はこの国に去年来た。)

→この文はどこに「来た」かを説明しているが、それが場所ではなく、「両親に感謝する」という状況だという違いだけ。

(2) 説明型の to 不定詞

・ be 動詞とともに使われ、to 不定詞が主語の説明語句となっている。

・ 予定以外にも一般的な内容、これから、意図、命令、運命の全部で6種類をあらわすことができる。

(3) 目的語説明

- think, know, believe などの思考系の動詞によく見られる形。
- この場合は、to 以下が彼のことをどう思うのかを示している。

⇒I consider him open-minded.ともいえる。

- to be を付け加えることで、文に慎重な思慮やフォーマルな感触を与える効果がある。

SECTION3 修飾位置での to 不定詞②

- (1) I'm going to Egypt () () some scuba diving 【目的：～するため】
ちょっとスキューバダイビングをやりにエジプトに行くんだよ。
- (2) I need someone () () me to the station.
誰か私を車で駅まで連れて行ってくれる人、いないかなあ。
- (3) He is easy () ().
彼をだますのは簡単だ。
- (4) I have no idea () () ().
なんて言うべきかわからないよ。

(1) 動詞句の説明と「足りないを補う」

- 動詞句だけではわかりにくい部分(目的・原因・結果)を to 以下で補っている。
- to 不定詞自身にいろいろな意味や用法があるわけではない！←文脈が大事

★足りない〇〇を補うためのフレーズ

「目的」・・・in order to, so as to

「結果」・・・only to, never to など

(2)名詞句の説明

- 名詞句の足りない部分を補っている。
- to 不定詞は first や someone, nobody, anything などがつく名詞句と相性が良い。

(3)形容詞の説明

- 難易や可能性を表す形容詞と組み合わせたり、足りない部分を補う。

★enough +to 不定詞:

「何をするのに十分なのか」ということを補うために to 不定詞が必要。

(4)wh 語+to 不定詞

- wh 語単独だけでなく、which way などのかたまりにも使うことができる。

SECTION4 to 不定詞が使われるその他の形

- (1) I find () difficult () () () early.
早起きするのは大変だ。
- (2) I was () shocked () speak.
ショックを受けすぎて口をきけなかった。
- (3) She pretended () () () working.
彼女はそれまでずっと仕事してたフリをした。
- (4) We'll try () () () too much noise.
私たちあんまり大きな音を立てないようにしますね。

(1) 「it+to 不定詞」のコンビネーション

- it は「情報を受ける単語」だからほぼ具体的な情報はなく、そこで to 不定詞で補う。

★「先送り」で文の形を整える

I make to wake up at 6:30 a rule. → I make it a rule to wake up at 6:30/

⇒主語の大きな頭でつらな文は、特に会話では好まれないため、it を用いて主語を先送りする。

(2) too ~ to ... (～すぎて・・・できない)

- too の「～すぎる」に「できない」という否定的なニュアンスがある。

(3) to+完了形

- to 不定詞に完了形の have を加えた「それ以前」を表す形で、文全体が表わす時点以前に to 不定詞の内容が起こったということ。

(4) to 不定詞の否定

- not はそのターゲット(今回は to 不定詞)の前に置く。